

SABO NEWS LETTER

第 120 号【発行日】平成 26 年 1 月 7 日（火）【発行】（一社）全国治水砂防協会

目 次

1. 目次・行事予定 1
2. 国土交通省砂防部長より新年のご挨拶 2
3. (一社) 全国治水砂防協会理事長より新年のご挨拶 3

行 事 予 定

(全国治水砂防協会)

2/20 ~ 21 第 54 回砂防および地すべり防止講習会 (砂防会館別館 「利根」 会議室)

ご質問、ご意見、ご感想、記事の詳細内容等、お問合せ先

一般社団法人 全国治水砂防協会

住所：〒 102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-5 砂防会館内

電話：03-3261-8386 FAX：03-3261-5449 E-mail：kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください。

<http://www.sabo.or.jp/>

国土交通省砂防部長より新年のご挨拶

会員の皆様へ

新年あけましておめでとうございます。

今年が皆様にとりまして良き年になりますようお祈り申し上げます。

今年は十干が甲、十二支が午で甲午（きのえうま）の年になります。物の本によりますと甲午の年は殻を脱ぎ捨て、変革の時期に入るという意味があるそうです。過去の甲午の年の出来事を振り返ってみますと、120年前の1894年（明治27年）には日清戦争が始まっております。災害史で見ますと、6月20日に東京湾北部でM7クラスの地震（明治東京地震）が発生し死者31名の被害が生じております。また、60年前の1954年（昭和29年）は、モスクワ近郊オブニンスクで世界初の原子力発電所が運転を開始しておりますし、国内では昭和の大合併が行われた時でもあります。災害では9月26日に台風15号により洞爺丸事故が起こり死者1155名の歴史上最悪の海難事故が起きております。

今年がどのような年になるのかわかりませんが、良い方向の変革が速やかに進む年であってほしいものです。そのような意味では年末に決まりました来年度予算がわずかとはいえ実質増となったことは何よりのことと考えております。会員各位の強力なご支援の賜と心から感謝申し上げます。

砂防関係事業も昨年の多くの大災害を受けて新たな施策の展開を模索する年になります。気候変動により多発し、激しさを増す土砂災害への危機管理の強化は喫緊の課題でありますし、想定外の雨を考慮した施設計画のあり方や、流木への対策、また、危険区域の設定の方法、人命を守るための警戒避難体制の強化等々まさに課題山積であります。さらには施設の維持管理等長寿命化へ向けての取り組みなども着実に実施していかねばなりません。

また、人口が減って疲弊していく山間過疎地の振興なども砂防が抱える課題の一つであると認識しております。里山砂防という施策がその対策の一つの答えになると思っております。地域の防災と合わせ地域の振興をはかることは砂防の長い歴史の中で幾度も繰り返されてきた施策に他なりません。近いうちに最近実施されている里山砂防の事例集を作成したいと考えております。市町村長さんのご意見などをお聞きいたしながら、砂防がどのように地域に貢献できるかしっかりお示しして参る所存です。

末筆になりましたが、年始にあたりまして砂防関係事業へのご支援・ご指導をお願い申し上げますと共に、皆様方のご健勝と地域の発展を心からお祈り申し上げます。

砂防部長 大野宏之

(一社) 全国治水砂防協会理事長より新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

皆様は、どのような初夢を見られたでしょうか？おめでたい初夢は、一富士、二鷹、三なすびと言いますが、その富士山が、昨年、世界文化遺産に登録されました。

富士山には、「大沢崩れ」という日本有数の大崩壊地があります。大沢崩れから流出してくる土砂による災害を防止するため、大規模な砂防工事を国土交通省の富士砂防事務所が行っております。

富山県にも 1853 年の飛越地震で大崩壊を起こした「鳶崩れ」があります。ここで実施されている立山砂防を代表する白岩堰堤砂防施設を世界文化遺産に登録すべく、様々な活動が展開されています。立山に代表されるように、我が国は急峻な地形、脆弱な地質の素因と、地震、火山噴火、台風・豪雨等の誘因に、狭小な国土での人間の営みと生産活動等の人為的現象が相俟って、数多くの、そして悲惨な土砂災害を被ってきました。私達は、その歴史を紐解くまでもなく、このような厳しい自然や悲惨な災害に対峙しつつ、社会の仕組みを改革し、技術の進歩を積み重ね、発展を成し遂げてきました。

中でも、災害が多い日本で発達してきた防災技術の一つが砂防であり、日本は世界に安全・安心をもたらすため、世界で最も優れかつ信頼されている日本の砂防を普及していかなければなりません。自然的現象や人為的現象を原因として流出した土砂により荒廃した自然を、穏やかな自然に回帰させ、人間生活に対する自然の脅威を軽減するのが砂防です。

世界においても、開発途上国は言うに及ばず、先進国でも、昨今の地球温暖化による影響により、激甚な土砂災害が多発している中で、世界は正に、日本の砂防を必要としています。協会の活動の大きな柱に海外との砂防交流があります。今年 11 月に奈良市で開催される「インタープリメント奈良 2014」(国際砂防・防災学会)にも積極的に関与しています。

今後とも、国内はもちろん、世界にも砂防の輪(和)を広げるべく、会員の皆様をはじめとして関係機関と協同して活動を強化して参ります。

本年もよろしく申し上げます。

(一般社団法人) 全国治水砂防協会
理事長 岡本 正男